

〈市立6校で140余名にのぼる被災生徒〉 交流ある政令市高教組から多額義捐金 各校教職員の協力により就学支援実施 ・市や国に給付型奨学金等の支援を求めたい

この度の震災により肉親家族を失われ、また不自由な生活を強いられている皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、震災直後、県内外の教職員同様、私たちが家族のこと、あるいはそれ以上に教え子の安否確認・保護や避難所運営に懸命に取り組んでいました。

その頃、報道等で仙台の惨状を心配した各都市組合は、いち早く行動を起こされ、電気・通信が回復した直後から、代表となった神戸を通じて安否確認や励ましのメッセージを、やがて多額の義捐金を寄せていただきました。

市立高教組も活動開始直後から、その用途を協議・検討してきました。組合員にも厳しい状況の方はいましたが、全額を生徒支援に役立てることで意見が一致しました。

組合員以外の皆様の協力もいただきながら調査し、市立全体で140余名を対象にすることを決定すると同時に、改めて被害の深刻さに慄然としました。

なお、該当された7名の方が、他の皆さんにということで義捐金辞退を申し出ています。

この度、ようやく配分を終えましたので取組みの概要をご報告します。被災者の状況に鑑み配分を急ぎました。調査漏れ・不公平もあったかと思いますが、何卒ご容赦下さい。

義捐金をいただいた組合

川崎市教組高校部 横浜市立高教組 名古屋市立高教組
京都市立高教組 大阪市立高教組 神戸市立高教組
広島市立高教組 福岡市立高教組 そして仙台市労連

区分・学校別支援状況

(全壊相当5万円・半壊相当2.5万円・転校2万円)

		仙 台	仙台工	仙台商	国南大志	青 陵	計
第1区分	全壊相当	15	30	12	10	0	67
第2区分	半壊相当	13	20	12	12	7	64
	転校	3	0	3	0	0	6
	計	31	50	27	22	7	137

震災・義捐金関連の活動

- 3.11 震災・各校で避難所立上げ
- 3.22・24・30 仙台市教委との事務折衝・緊急要請
- 4.4・5 仙台市労連と市当局の協議
- 4.7 最大余震
- 4.9 仙台工の避難者70名宮城野体育館へ(市立全避難所閉鎖)
- 4.14 (全教・県高教組、市教委へ義捐金贈呈)
- 4.16 大都市代表団来仙 義捐金目録いただく
- 4.21 市立各校で入学式(青陵の後期課程は4.22)
- 4.28 市立執行委員会(義捐金配分方針・日程)
- 5.11 仙台市労連より義捐金いただく
- ～5.26 被災生徒調査
- 6.2 義捐金の案内
- 6.9 義捐金の配分
- (7.16 大都市の集まり 義捐金のお礼・震災報告)

※大都市代表震災見舞

4月16日(土)13:00過ぎ

仙台工応接室での会談→

大都市高教組連絡協議会を代表して神戸市立高教組から書記長の佐田さん(写真右端)と執行委員の森瀬さんが震災見舞のため訪問されました。伊丹から飛行機で福島へ、長距離バスで仙台入りしたお二人を、内記委員長・寺沢前委員長・作山がお迎えしました。

神戸、あの阪神大震災を乗り越えてきた神戸が、忙しい中代表を引き受け、来仙されたことから、強く励ましと連帯のエールを感じました。

仙台市の被災状況、神戸震災との違いなどを意見交換した後、寺沢先生の車で、仙台港近くまで産業道路を走行しました。仙台工は避難所も閉鎖され、学校周辺を進むうちは震災の被害状況はさほどでない状況でしたが、産業道路に進むと光景は一変し、震災から1ヶ月を過ぎた今も後片付けの重機が動いているなど津波の猛威を見せつける光景が広がり、2人は言葉を忘れてカメラのシャッターを押し続けていました。仙台工訪問から仙台駅に出發されるまでわずか2時間余りでしたが、津波の恐ろしさを改めて感じておられる様子でした。

森瀬さんから義捐金目録を受ける内記委員長→

